佳作

動物園ってすごい

鹿児島県　鹿児島市立原良小学校五年　瀬戸口　健

七月二十九日、ぼくは平川動物公園のサマースクールに参加しました。小さい頃から動物園や水族館が大好きなぼくは、初めてバックヤードの様子を見ることができることにワクワクしました。動物たちの部屋はどうなっているのだろう、夜はどこで寝るのだろう、何を食べているのだろう…。聞きたいことがたくさん浮かんできました。

朝、お母さんにお弁当を作ってもらい、お父さんに平川動物園まで送ってもらいました。

今日は一人で動物園。いつも家族でわいわい言いながら歩く動物園とはちがって見えて、少しきんちょうしました。

まず動物学習館という建物で開校式がありました。ぼくと同じような小学五、六年生が三十名ほど集まりました。

開校式で飼育員さんから、動物園で飼育している動物たちは「ペット」ではなく「人には慣れていない野生動物」である、ということを教えてもらいました。本来鹿児島でも日本でもないところに生息している動物たちだから、環境がちがう中で少しでも安心してもらえるように手助けするのが、飼育員さんの役目だ、ということも。

ぼくはライオンのそうじ担当になりました。百獣の王と言われるライオンの小屋のそうじなんて…と少し怖かったけど、そうじの時、ライオンは別の部屋にいました。床をはいたり、フンを取ったり、危険な物が落ちていないかもチェックしました。フンから動物の健康状態を知ることもできるそうです。

それから、ツキノワグマにエサをやりました。直接あげるのではなく、自然に近い状態で、竹のつつに果物をつめてエサをあげました。ツキノワグマがぼくが用意したエサを食べてくれた時はうれしかったです。

飼育環境は動物の習性に合わせて作られていること。エサはできるだけ自然に近い状態であげること。フンやエサの量で毎日健康観察していること。夜は安全な別の部屋があること。動物園には獣医さんもいること。動物の担当は決まっていて、少しでも動物に安心してもらえるようにしていること。

ぼくは今まで動物園に来たら「かわいいな」「こわそうだな」という感じでしか動物を見ていなかったけど、いつ来ても元気な動物に会えるのは、毎日動物たちのお世話をしている飼育員さんたちがいて、動物の健康を管理してくれる獣医さんがいて、園内を掃除してくれているたくさんのスタッフの人たちがいるからだ、ということに気付きました。

このサマースクールに参加して、生き物を飼育する大変さと、命の大切さを学び、動物園にはたくさんの人が働いていて、たくさんの動物たちを毎日大切に飼育していることを知りました。今度家族で動物園に行く時は、ぼくが動物園のことを教えてあげたいと思います。